

子どもたちが拓く〈地方再生〉の未来 ～海洋教育の可能性を考える～



海洋教育シンポジウム

日時

2019年 1月 26日(土) 13:30-17:00
13:00 開場

場所

オルガ地下ホール
岡山市北区奉還町 1-7-7 (岡山駅西口)
[TEL] 086-254-7244

参加費

無料

《申込み》1月18日までに 裏面「参加申込書」
により郵送・FAX・メールでお願いします。

【開催趣旨】

備前市日生(ひなせ)が「アマモ場再生活動発祥の地」「里海づくりのトップランナー」と呼ばれ、国内はもとより世界各地からも注目されるようになって久しい。それは、30 数年間の長きに亘り、日生の漁師たちが決して諦めることなく地道に取り組んできたアマモ場再生活動の軌跡に対する賞賛の呼称である。しかし、つい最近までほとんどの地元住民はこの事を知らなかった。生徒達もまた、自分たちが日々目にする海の危機を知る由もなく、関心も皆無であった。6年前に地元の日生中学校がアマモ場再生活動に参加するようになり、海洋教育の発展と深化とともに、生徒たちの海に対する認識と意識は大きく変わった。もはや「アマモ」や「里海」の言葉を知らない生徒はいない。生徒たちの口から海洋学習の楽しさ、アマモの大切さ、海の危機と里海的重要性は、保護者や地域住民へと広がっていき、学校教育が、生徒を通じて「地方再生」への大きな動きとなっている。

この海洋教育シンポジウムでは、海洋学習に取り組んでいる日生西小学校・日生中学校・岡山学芸館高校の代表生徒から実践活動について発表し、日生に深く関わってきた3名の演者を招き、それぞれの視点から「日生と里海」、「教育と地方再生」について議論し考える。



松田治氏：広島大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議理事長。専門は物質循環論・沿岸環境管理など。「瀬戸内海を里海に」、「森里海連環学」、「海洋問題入門」など著書多数。環境省の行政委員ほか多くの要職を歴任。



上原拓郎氏：立命館大学政策科学部准教授。米国ポートランド州立大学でPhD (Systems Science: Economics) を取得、専門は経済学・環境政策など。「社会生態系」の観点から沿岸域サステナビリティ評価手法の開発等に取り組む。



吉野奈保子氏：NPO 法人共存の森ネットワーク理事・事務局長。民族文化映像研究所にて日本各地の農山漁村の生活文化の研究に従事した後、2002 年より農水省、文科省、環境省等と共に「聞き書き甲子園」を主催、今年で第 17 回を迎える。



主催：備前市立日生西小学校・備前市立日生中学校・岡山学芸館高校
共催：NPO 里海づくり研究会議・生活協同組合おかやまコープ・(公財)おかやま環境ネットワーク
後援：岡山県・備前市・真庭市・笠岡市・岡山市・岡山市 ESD 推進協議会



◇プログラム◇ *敬称略

13:30~13:40 開会あいさつ 加藤武史/岡山学芸館高校 副校長

13:40~14:05 基調講演Ⅰ 「里海と地域振興をつなぐ」

松田 治/広島大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議 理事長

全国的な広がりをみせている里海づくりは、多様な人々が連携して地域に豊かな海を実現する取り組みであり、環境、景観、生態系や水産資源状況の改善などが期待できる。このような成果は、水産関連産業やツーリズムなどに関係が深く、地域振興や地方再生にもつながっている。特に、人口減少が進む地方では、里海活動による地域の賑わいと新たなきずなが強く求められている。取り組み事例を紹介しながら、このような活動の持続のために必要な次世代に向けた海洋教育の重要性について考えたい。

14:05~15:00 実践活動発表 備前市立日生西小学校・備前市立日生中学校・岡山学芸館高校

15:00~15:30 基調講演Ⅱ 「海洋学習がつなぐ生徒と海と地域社会」

上原拓郎/立命館大学政策科学部准教授

全国海洋学習は生徒の学びの機会としてだけでなく、地域にとっても重要であると考えられる。本講演では日生中学校の海洋学習を事例として、(1) 生徒と海、生徒と地域とのつながりの醸成に果たす海洋学習の役割、そして(2) つながりを醸成する機会としての海洋学習に対する地域住民の評価、について解説する。

15:30~16:00 基調講演Ⅲ 「子どもたちは地域をつなぐ」

吉野奈保子/NPO 法人 共存の森ネットワーク 理事・事務局長

全国の高校生が参加する「聞き書き甲子園」の活動を通して、「聞き書き」という手法は、単に記録を残すためにあるのではなく、人と人との信頼関係を醸成するコミュニケーション・ツールであると気づく。「聞く」という行為を通して、子どもは、地域社会や大人たちとの接点を得る。子どもたち自身が地域をつなぎ、地域を変える原動力となり得ることを、日生中学校の海洋学習などを事例に話す。

16:00~16:10 休憩

16:10~17:10 パネルディスカッション

『子どもたちが拓く“地方再生”の未来—海洋教育の可能性を考える—』

〈コーディネーター〉

藤田孝志/備前市立日生中学校 教諭

〈パネリスト〉

松田 治・上原拓郎・吉野奈保子(前出)

備前市立日生西小学校・備前市立日生中学校・岡山学芸館高校の各学校代表生徒

17:10~17:20 閉会あいさつ(総評)

柳 哲雄/九州大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議 副理事長

〈司 会〉 田中文裕/NPO 里海づくり研究会議理事・事務局長

参加申込書 『海洋教育シンポジウム』(2019年1月26日開催)

子どもたちが拓く〈地方再生〉の未来—海洋教育の可能性を考える—

フリガナ お名前	(参加者数 名)	ご所属 団体名	
ご連絡先(お電話番号またはメールアドレス)			

※複数でご参加の場合は、代表1名のお名前を記入のうえ、カッコ内に人数をご記入ください。

※お申し込みでご提供いただいた個人情報は、この行事企画以外には使用致しません。

【FAX・メール・郵送でのお申し込み】

公益財団法人おかもやま環境ネットワーク 〒700-0026岡山市北区奉還町1-7-7

TEL & FAX 086-256-2565 / 携帯 070-2355-1420 / E-mail: kankyounet@okayama.coop